

S  
B  
11

るけ於に市兩阪大京東

# 職 業 婦 人 調 査

(給 女)

大 正 十 五 年 三 月



国立保健医療科学研究所



\*10012125\*

中 央 職 業 紹 介 事 務 局

昭和 年 月 日

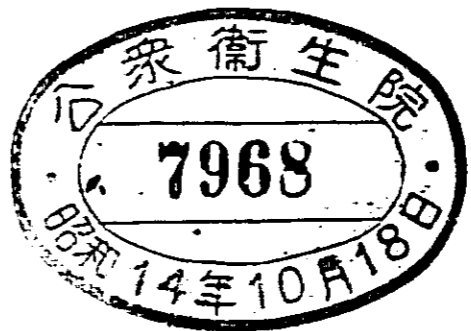
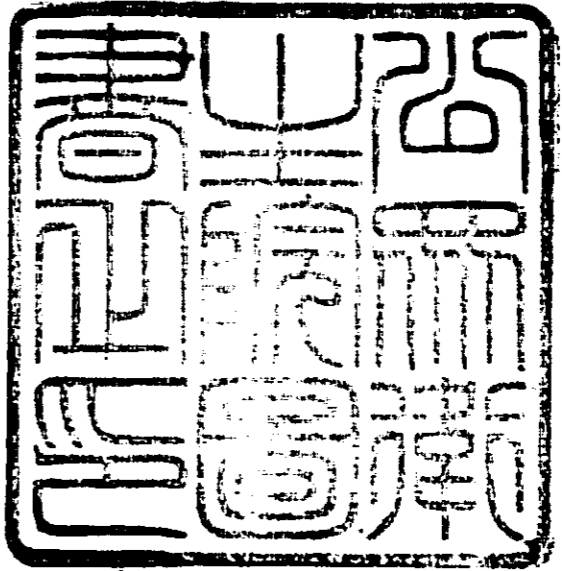
川上理一氏

贈

中央衛生院

7968

S
B
//



796A

# 目次

## 緒

### 言

調査目的……………一

調査範圍……………二

調査區域……………二

調査期日……………二

調査方法……………二

回收成績……………三

## 第一章 調査概況……………六

一年 齡……………六

二 兩 親……………三

三 兄弟の數……………一八

四 出身府縣……………二〇

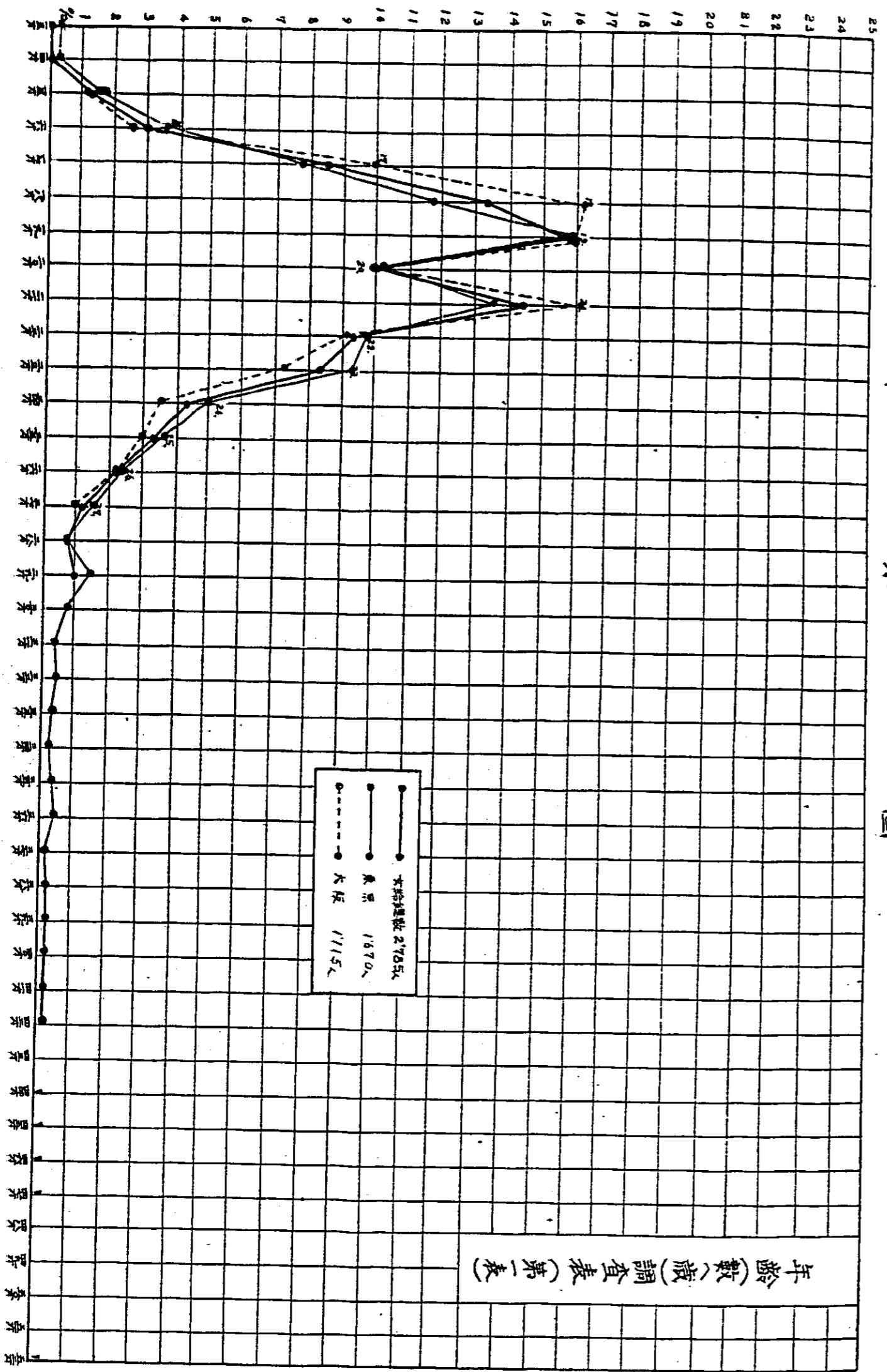
五 在京、在阪の期間……………三二

六 前職の有無	三九
七 就職理由	四七
八 女給生活の期間	五七
九 現在の店に就職してよりの期間	六三
一〇 勤務先変更の回数	六八
一一 住込、通勤	七一
一二 就寝時間と起床時間	七四
一三 一日の生活	八七
一四 収入状況	八八
一五 支出状況	一〇九
一六 配偶関係	一三二
一七 感想	一三三
一八 将来の方針	一四五
第二章 約言	一五六
第三章 カフェ、レストラン、バーの概観	一六四

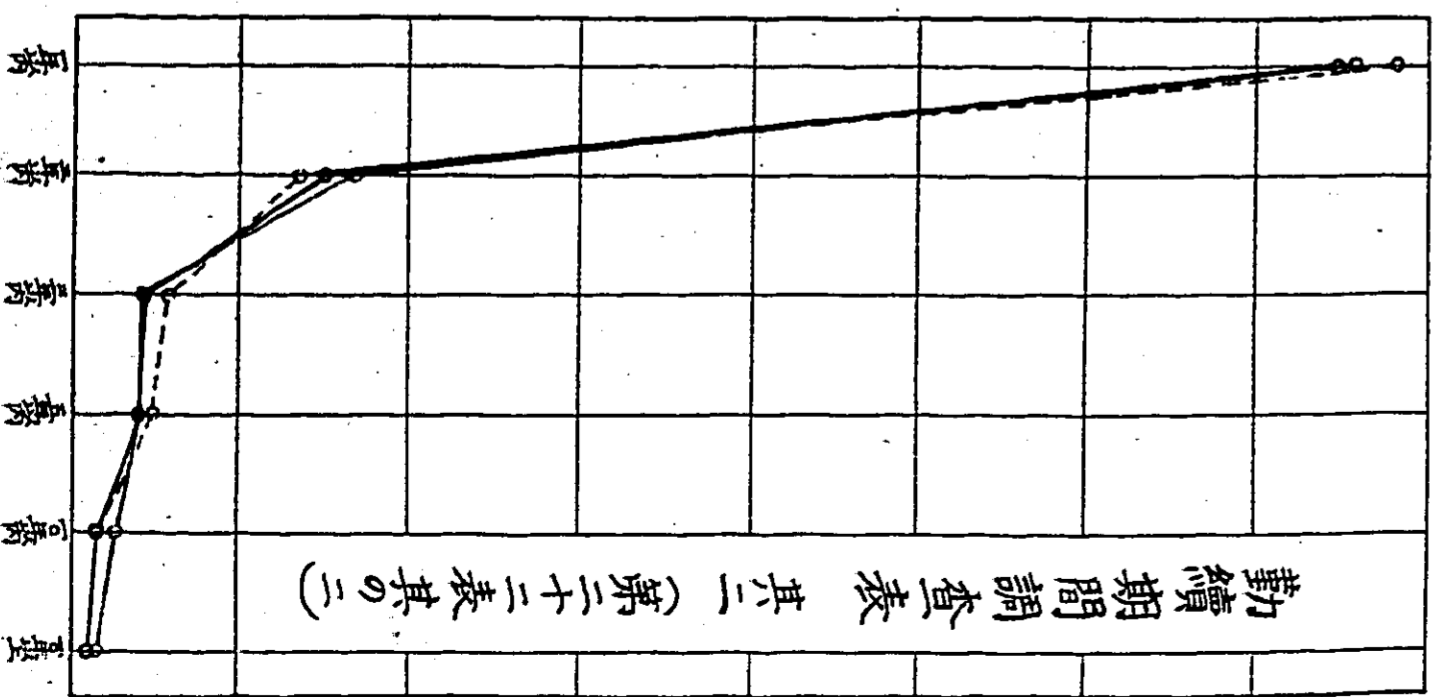
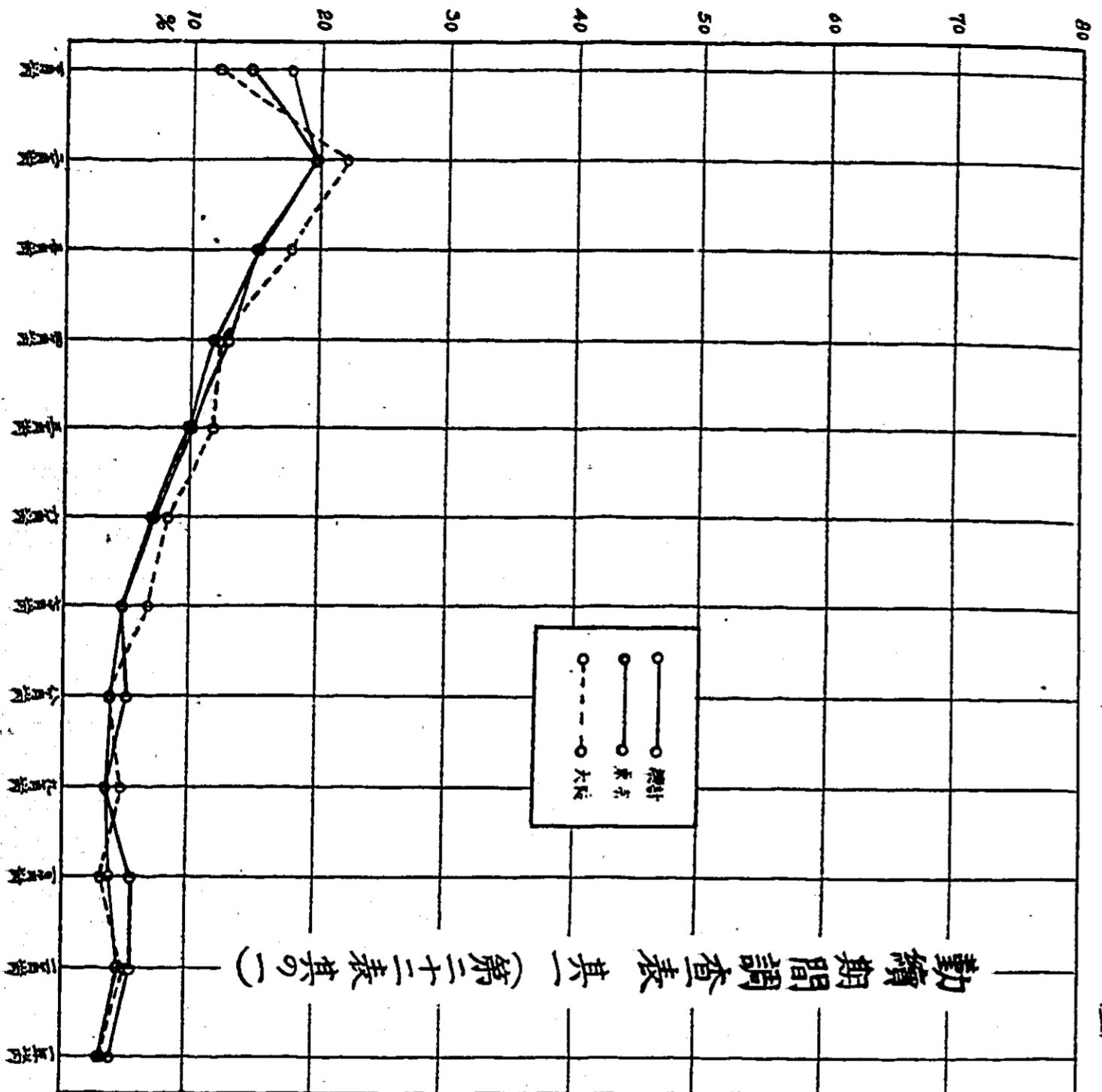
### 附録 圖表目次

第一圖 年齢(數(歲)調査表	(第一表)
第二圖 勤続期間調査表其ノ一、二、 通勤住込別調査表	(第二十二表其ノ一、二) (第二十六表)
第三圖 チップ調査表 固定給調査表	(第三十八表ノ二) (第四十三表ノ二)
第四圖 就眠時間調査表 起床	(第二十九表ノ二) (第三十表ノ二)
第五圖 總収入調査表	(第三十五表ノ二)
第六圖 貯金調査表 其ノ一 其ノ二	(第四十六表) (第四十六表ノ二)
第七圖 送金調査表 其ノ一 其ノ二	(第四十九表) (第四十九表ノ二)

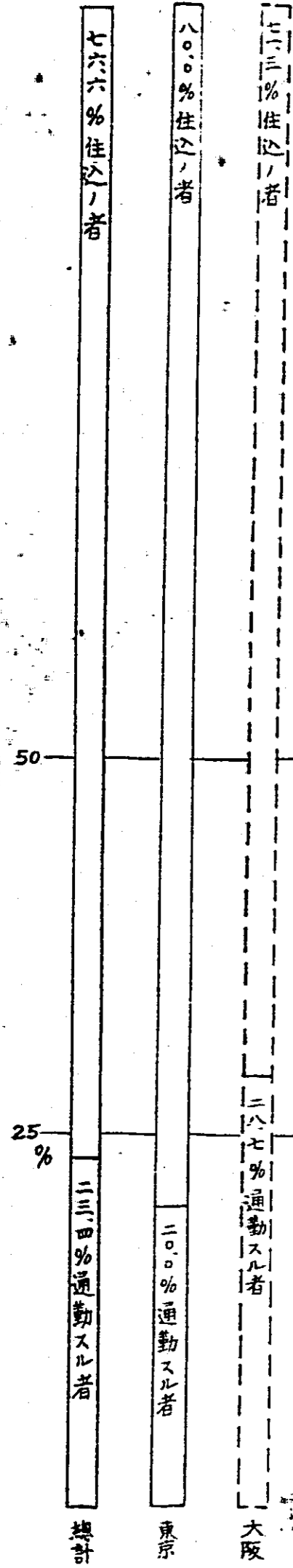
第一圖



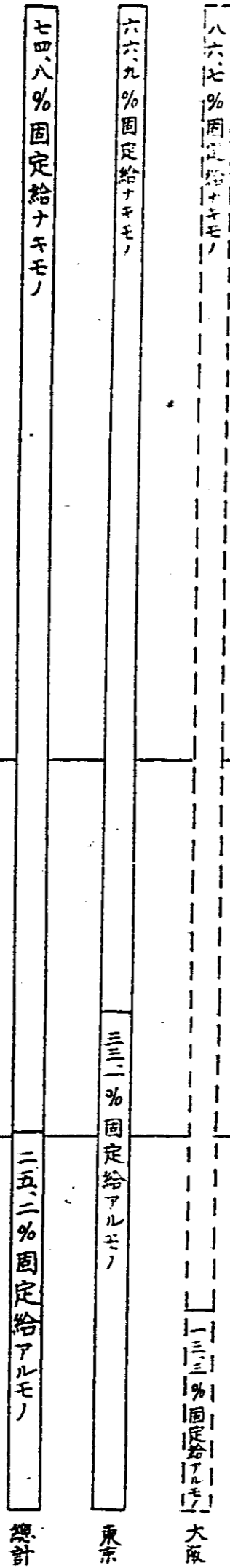
第二圖



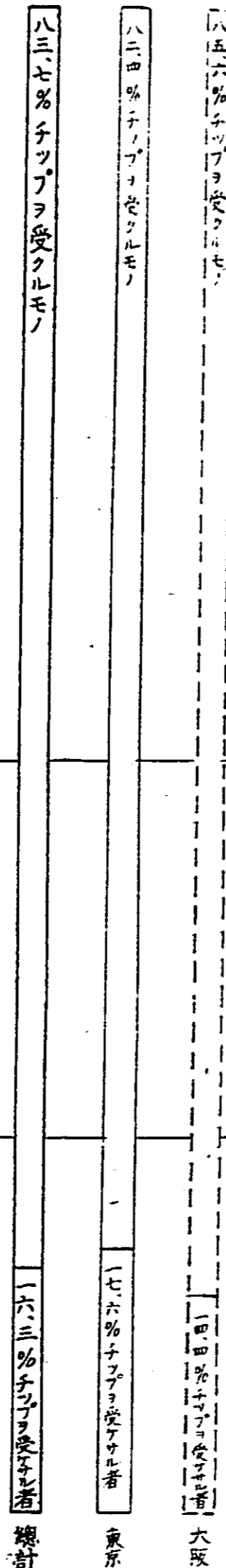
通勤住込別調査表(第二十六表)



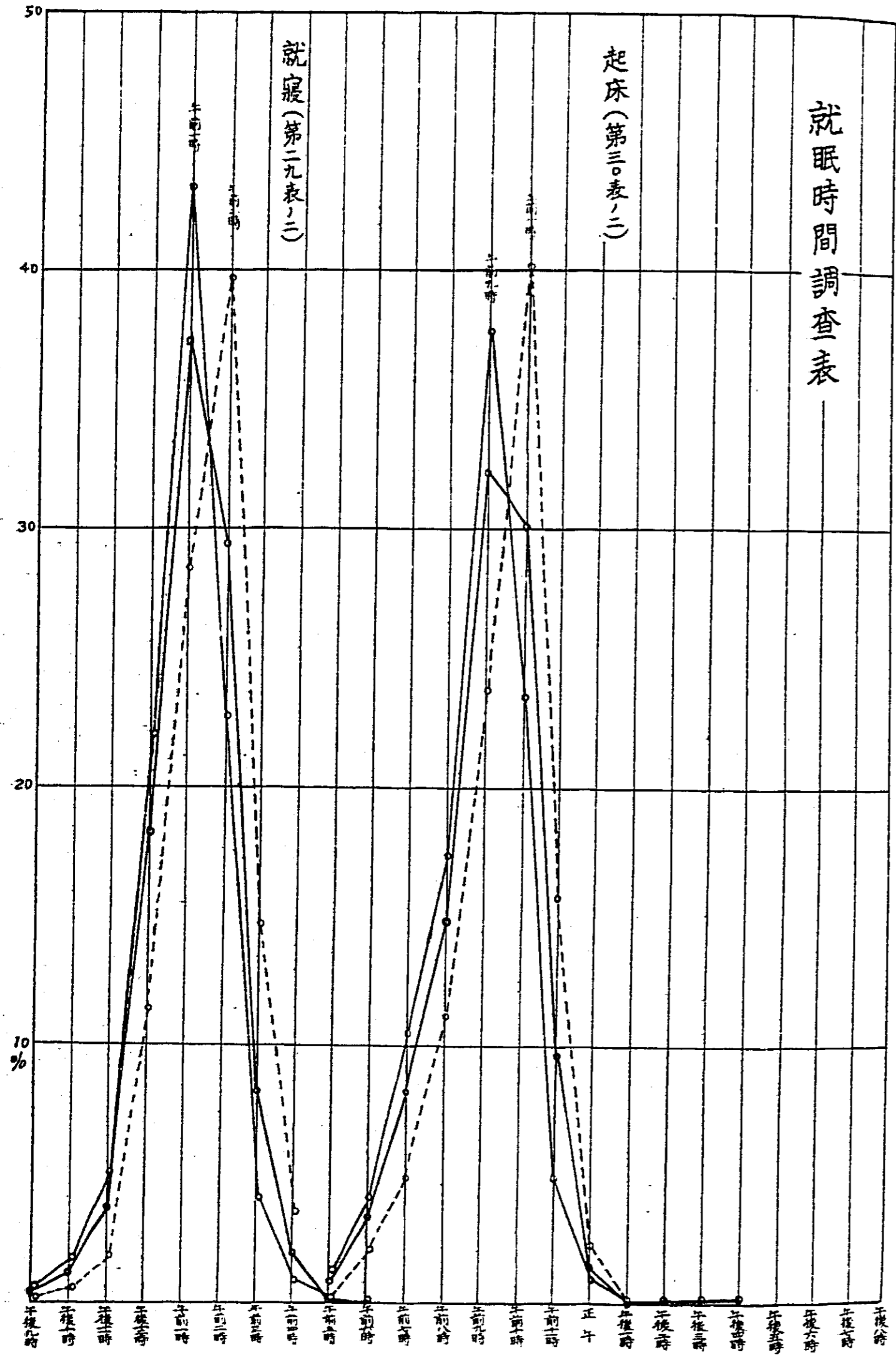
固定給調査表(第四十三表ノ三)



チップ調査表(第三十八表ノ三)

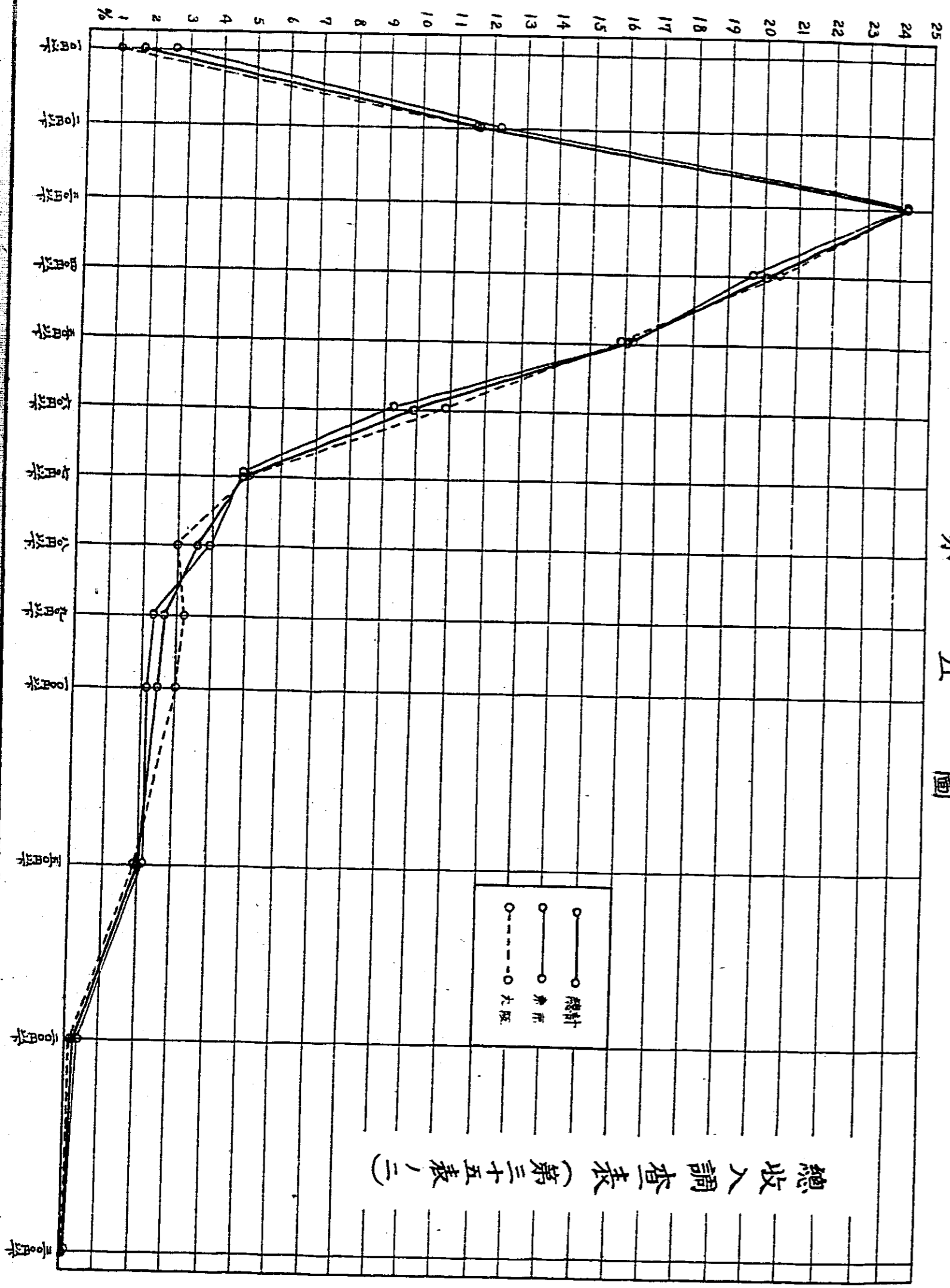


第四圖

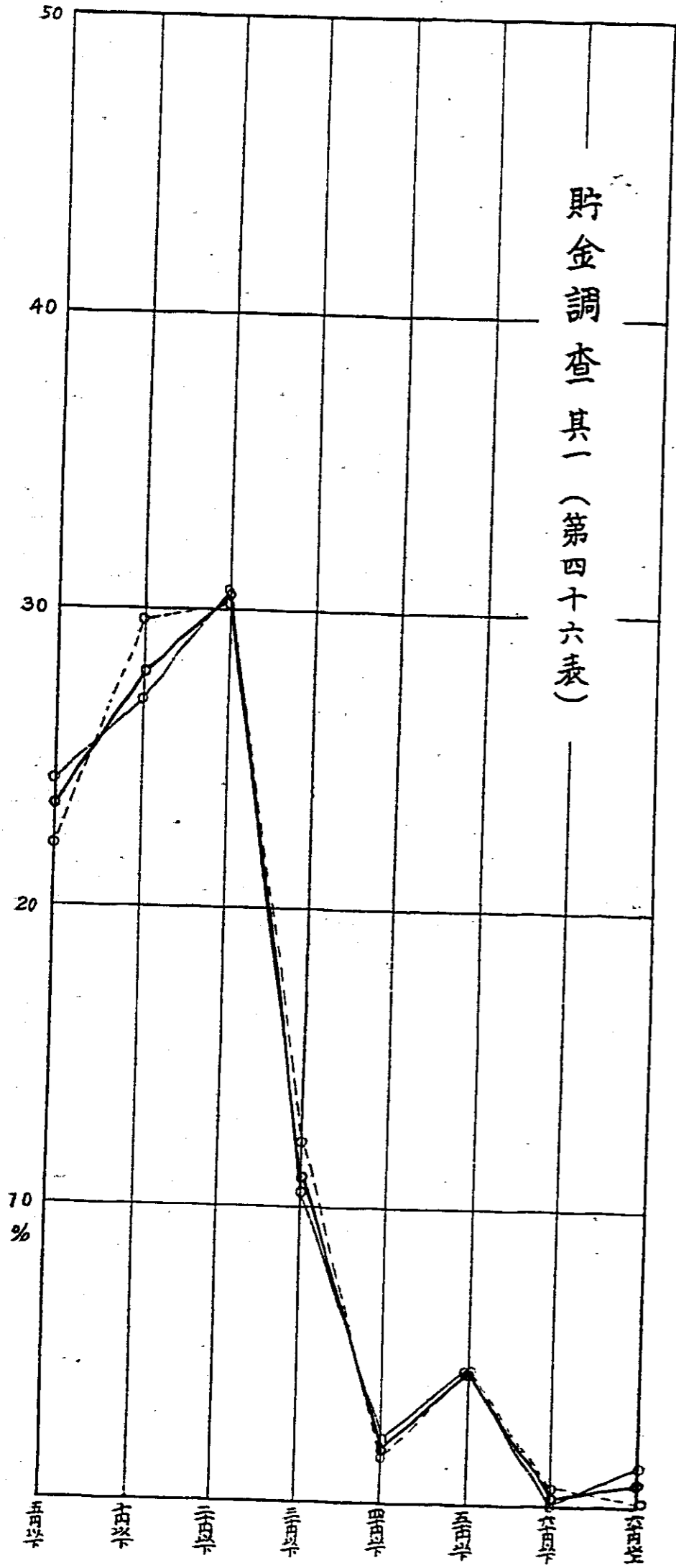




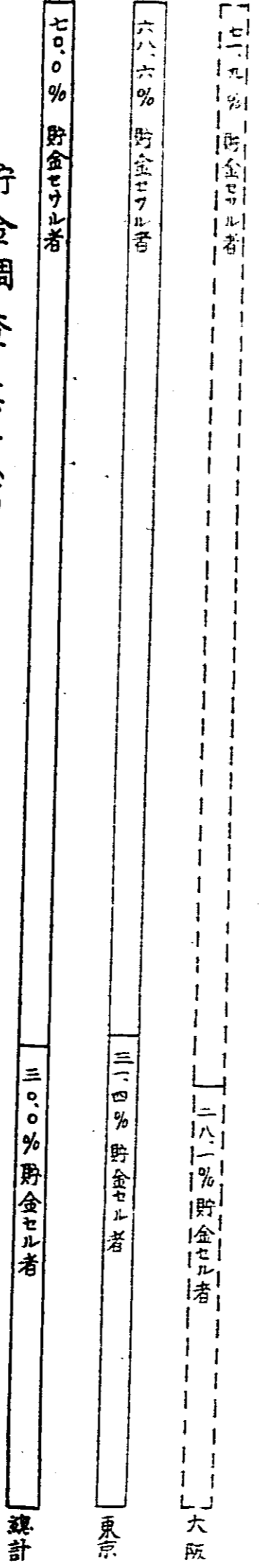
第五圖



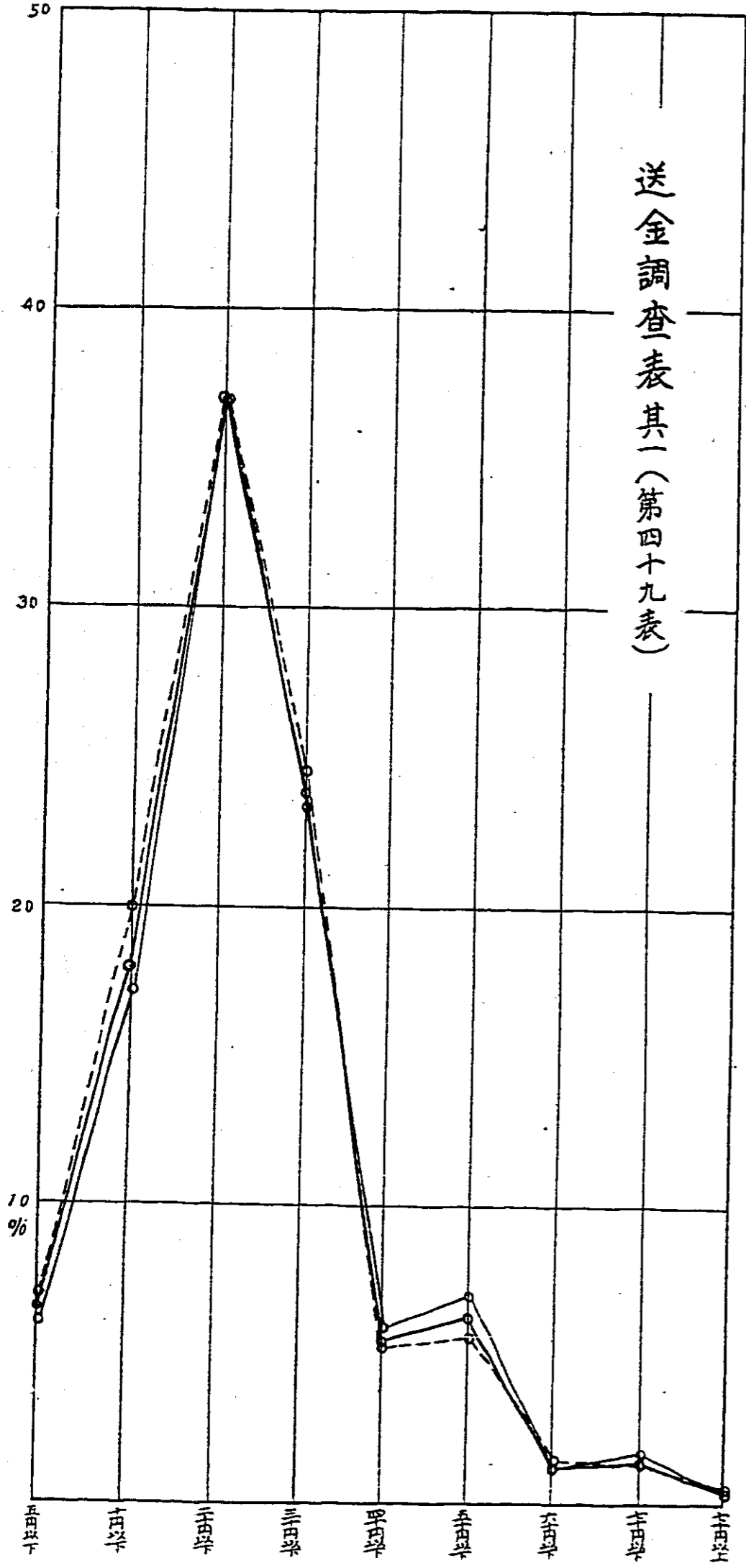
第六圖



貯金調査其二 (第四十六表ノ二)



第七圖



送金調査表其一 (第四十九表)

送金調査表其二 (第四十九表ノ二)

送金セザル者 不明 七六四%

送金スル者 三六%

總數

送金セザル者 不明 七九三%

送金スル者 二七%

東京

送金セザル者 不明 七二二%

送金スル者 二七八%

大阪

# 職業婦人調査(女給)

## 緒言

### 調査目的

近來生活の窮迫と婦人の自覺とが著しく職業婦人の數を増加せしめて次第に従來の男子の職業に侵入して、さなきだに失業問題に悩まざるゝ今日重大な社會問題化されやうとしてゐる。斯様な傾向の良し悪しは暫く別として、現今に於ける各種の職業婦人の實相殊に就職の動機、生計状態及び弊害、感想等を調査し、改善上の参考となすと共に、亦將來職業婦人を志す者に對する指針ともなし、併せて公益職業紹介所職員の執務上の参考資料に供するは、極めて必要な事であるから、之が調査を爲すに至つたのである。

殊に幾多の新しい婦人職業の中に於ても女給と言ふ職業は數年來急激なカフェーの増加繁榮にまかせて非常なる發展を示し、經濟界不況のどん底に沈む時と雖も益々増加するの狀態にある。

此のカフェーの發展は現代の浮華輕佻の社會相の反映であると言ふ人もある。此の言葉は或ひは誇大に過ぎるとは謂へ不良少年、學生の多くの犯罪が此のカフェーを背景に頻々として起りつゝあることは事實である。之れ實に當面の重大なる社會問題にして警察當局のこの方面の取締に意を用ふるの

は寧ろ當然と言はねばならぬ。

新しき婦人の職業であり、而もかゝる渦中にある所謂女給の實相を知ることには以上の目的から見て目下の急務であるが他の婦人職業と大いに其の趣を異にする所があるから一般事務員、交換手、タイピスト、店員等と區別して一冊子となしたものである。

### 調査範圍

女給と言ふ言葉に依つて代表されるものは相當範圍の廣いものであるけれども、本調査では所謂カフェー女給を中心として、それに西洋料理、喫茶店などに働くものをも加へたる意味の近代的エプロン女給に制限して調査することとした。

### 調査區域

東京、大阪の二大都市。

### 調査期日

大正十四年七月下旬。

### 調査方法

別表の通りの調査票を配布回収した。

調査票に氏名欄を省きたるは特に記入を正確にしたきためである。又回収方法としては本人直送するか店主へ渡し置くか何れかの方法を執る様に記入しておいたが之れが回収數の不結果になるとを虞れたのであるが其結果としては豫想以上の回収率を收めることが出来た。

### 回収成績

	配 布 數	警 察 署 數	回 收 數	回 收 率
東 京 市	二、九五五	一九	一、八四七	六・二五
大 阪 市	一、三〇三	一七	一、一一五	八・五六
計	四、二五八	三六	二、九六二	六・九六

乙票は大正十四年七月中に配布を終り八月中に回収を打切り其後の到着の分は除外した。

東 京 市 女給概數七、三一九人



# 第一章 調査概況

## 一年 齡

飲食は第二先づ若い娘の愛嬌が客を引くのが現在のカフェーである。従つて此處に働いてゐる人々の年齢は自づと明かなことである。

第一表 年齢表(數へ年) (第一圖表参照)

年 齡	數		率	
	東 京	大 阪	東 京	大 阪
二	一四八	七	九・一	七・一
三	一五五	九	九・六	九・〇
四	二一七	七	一三・四	一六・〇
五	一六三	〇	一〇・〇	九・八
六	二五六	一	一五・八	一五・八
七	一八六	七	一一・五	一六・一
八	二二四	〇	七・六	九・八
九	五五	二	三・四	二・四
一〇	二一	一	一・三	一・〇
一一	七	一	〇・四	〇
一二	二	一	〇・一	〇
計	二二五	二	八・五	一・二

年 齡	數		率	
	東 京	大 阪	東 京	大 阪
二	一	一	〇・一	〇・一
三	一	一	〇・一	〇・一
四	二	一	〇・二	〇・一
五	三	一	〇・三	〇・一
六	三	一	〇・三	〇・一
七	二	一	〇・二	〇・一
八	三	一	〇・三	〇・一
九	三	一	〇・三	〇・一
一〇	二	一	〇・二	〇・一
一一	三	一	〇・三	〇・一
一二	三	一	〇・三	〇・一
計	一〇七	一	四・三	〇・三

年 齢	東 京			大 阪			率
	東	京	計	大	阪	計	
四 七 歳	—	—	—	—	—	—	—
四 八 歳	—	—	—	—	—	—	—
四 九 歳	—	—	—	—	—	—	—
五 〇 歳	—	—	—	—	—	—	—
五 一 歳	—	—	—	—	—	—	—
五 二 歳	—	—	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—	—	—
不 明	四八	三九	八七	—	—	—	—
總 計	一、六七〇	一、二一五	二、七八五	—	—	—	—

然し數に依つて見ると東京は十九歳、大阪は十八歳が最大比率を示し其の數東京市二五六人、大阪市一七四人で各調査總數に對してはそれ〴〵一割五分八厘、一割六分強に當る。第二位にあるものは東京、大阪共に二十一歳で東京は二一七人(總數に對し一割三分四厘)、大阪は一七三人(同様に一割六分)、第三位は東京十八歳、一八六人(一割一分五厘)、大阪は十九歳、一七〇人(一割五分八厘)で、

全票を通じて見れば十九、二十一、十八、二十歳の順序であつて之等を合計すれば一、四四五人となり調査總數の過半を占めてゐる。要するに唇の色のあせぬ間の勤め故、其の中に「鬼も十八蛇も二十」の娘盛りが最も多いと言ふのは當然過ぎることである。唯二十歳の者は中間に在るから最も數が多い筈であるのに特に少數であるといふことは一見不思議の感を抱かせる現象である。思ふに之れは世に所謂丙午の迷信による心理の表現ではなからうか。年頃の娘に彼の迷信が可成り強いコダワリを與へてゐることが窺はれる。即ち或ひは十九歳と申告し、或ひは二十一歳と申告しさなくば不明の儘に書かすにおくと言ふものが多數あつて此の調査に現はれた二十歳の者の數は實際よりは遙かに少なきものと考へられる。

次に配布先を嚴密にカフェー及びバー、喫茶店とすればより著しく數に於て其の傾向が明かになつたことと思ふが此の度の調査票配布は其處まで嚴重に行はれずカフェー兼業の大きな料理屋、牛肉屋等のお座敷女中に配布された方面もあつたため高齢者が調査表の上に相當現はれたのは其真相を得ないもので甚だ遺憾とする次第である。

次に試みに各警察署管内別に東京、大阪の兩表をあげれば

第二表 警察署管内別年齢表 (東京)







一概に不良少女の集窟であり、手にもおえぬアパヅレ女が淪落の末の落着く社會とのみ考へられてゐるが其の眞實を聞いて見ると餘りに酷な見方であつて同情に堪へぬものがあることを知る。両親の有無もそれを窺ふ一つの申告であらう。假令彼等の申告に多少の虚があるとしてもそれは大勢には大なる影響を與ふるものではないと思ふ。却て不遇な關の子にして不明の中に含まるゝ無記入の者が多々あることと思ふ。

第四表 両親の調査

區別	實數率		數		率		順位
	東京	大阪	計	東京	大阪	計	
實父母健在	六一一	三七六	九八七	四五・二	四一・五	四三・七	一
實父丈健在	一二九	一一五	二四四	九・五	一二・七	一〇・八	三
實父丈繼母	五三	四一	九四	四・〇	四・六	四・二	五
實母丈繼父	三二八	二一九	五四七	二四・三	二四・二	二四・三	二
實母丈繼父	三三	二五	五八	二・四	二・七	二・六	八
實父母なし	八九	五七	一四六	六・六	六・三	六・五	四
繼父母健在	七	三	一〇	〇・六	〇・三	〇・五	一〇
繼父丈	一	一	二	〇・一	〇・一	〇・一	一一
繼母丈	二	一	三	〇・一	〇・一	〇・一	一一

總計	不明	計	養父母健在		養父丈	養母丈	計
			養父丈	養母丈			
一、六七〇	三三八	一、三五二	四五	四一	一三	四一	七
一、一一五	二二一	九〇四	三五	二〇	一二	二〇	九
二、七八五	五二九	二、二五六	八〇	六一	二五	六一	一六
		一〇〇・〇	三・三	三・〇	〇・九	三・〇	七
		一〇〇・〇	三・九	二・二	一・三	二・七	九
		一〇〇・〇	三・五	二・七	一・一	二・七	六

兩市共實父母健在が第一位にあるのは寧ろ當然であつて怪しむに足らぬが一覽して最も注意を惹くものは實母丈のものが非常に多數を示すことで東京三二八八人(二割四分)、大阪に二一九九人(二割四分)合計五四七人(二割四分)、それに養母丈のもの合計三分弱を加ふれば彼等の中にはかよわい十六、七歳からの娘が一人の母を養ふ爲に已むを得ず女給になつてゐるものが兩市を合せて二割七分もある譯である。此の點から見ても女子は男子に比して經濟的に獨立性が乏しく夫を失つた母は自分の力で子女を養ふことが出來ず、勢ひ子女をカフェーにでも通はさなければ生活出來ないものが多いことが窺はれる。

次に實父丈のものが第三位を占め實父母なきものそれに次ぐ、其他片親異ふもの、養父母の手にあるもの、養父丈のもの等、兎に角女給總數の中で實父母の揃つて健在のものは實に其の半數に充たな

いのである。

第五表 警察署管内別兩親の調査 (東京)

區別	警察署		實父母健在	實父丈け	實母丈け	實父母なし	繼父母	實父繼母	繼父實母	繼父丈け	繼母丈け	養父母	養父丈け	養母丈け	計	不明
	谷日比	錦町														
谷日比	五	五	五	八	八	八	一	一	一	一	一	一	一	一	二	二
錦町	三	三	三	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	三	三
西神	三	三	三	八	八	八	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
新場	一	一	一	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	一	一
築地	五	五	五	三	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
北紺	二	二	二	二	二	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三田表町	一	一	一	三	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
四谷	二	二	二	三	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
神樂	二	二	二	九	九	九	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
早稲	二	二	二	二	二	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
富坂	三	三	三	六	六	六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
本富	三	三	三	二	二	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
上野	五	五	五	八	八	八	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
象湯	七	七	七	二	二	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
原庭	三	三	三	三	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
洲崎	一	一	一	四	四	四	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
大塚	一	一	一	二	二	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
日本	二	二	二	二	二	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
計	六	六	六	八	八	八	七	七	七	七	七	七	七	七	三	三
百分比	四・三	四・三	四・三	六・五	六・五	六・五	〇・五	〇・五	〇・五	〇・五	〇・五	三・三	三・三	三・三	一〇〇・〇	一〇〇・〇

次に兩市に於ける各警察署管内別に分ちて掲ぐれば東京市では日比谷の實父母健在が特に半數を超へて多いのは目立つ。次に築地、四谷、早稻田、上野、大塚も兩親揃つてゐるものが多い。特に不明の數字の多いのでは富坂、上野、象湯、日本堤が注意される。思ふに之等の管内の女給は割合に無學のものが多く或ひは又私生兒の如き明かにしたくない境遇の人が多く爲と見て差支へなからう。

第六表 警察署管内別兩親の調査 (大阪)

區別	警察署		實父母健在	實父丈け	實母丈け	實父母なし	繼父母	實父繼母	繼父實母	繼父丈け	繼母丈け	養父母	養父丈け	養母丈け	計	不明
	芦原	船場														
芦原	三	三	三	二	二	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
船場	五	五	五	六	六	六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
玉造	二	二	二	三	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
鳥之	二	二	二	三	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
難波	二	二	二	三	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
戎	一	一	一	三	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
新町	二	二	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
九條	七	七	七	二	二	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
朝日	三	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
天王	二	二	二	四	四	四	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
天満	二	二	二	三	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
會根	六	六	六	九	九	九	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
泉尾	九	九	九	三	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
福島	七	七	七	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
川口	三	三	三	四	四	四	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
築港	一	一	一	三	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
網島	六	六	六	二	二	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
計	三	三	三	五	五	五	三	三	三	三	三	三	三	三	一	一
百分比	四・五	四・五	四・五	六・三	六・三	六・三	〇・五	〇・五	〇・五	〇・五	〇・五	三・三	三・三	三・三	一〇〇・〇	一〇〇・〇